

コミュニケーション

- 口腔の健康からQOLの向上へ -

第38号

平成 17 年 10 月 1 日発行

発行

東京都立心身障害者口腔保健センター

〔管理運営：社団法人 東京都歯科医師会〕

〒162-0823 東京都新宿区神楽河岸 1 番地 1 号

セントラルプラザ 8F・9F

代表電話：03-3235-1141 / FAX：03-3235-1144

診療・予約に関する

電話：03-3267-6480 / FAX：03-3269-1213

特集

センターでの全身麻酔Q&A

どんなふうに行われているの？

【はじめに】

当センターには、年間約1万3千人の患者さんが来院しており、私たちは、患者さん一人一人にあった診療計画を立て、治療や予防指導を進めています。

歯科診療中は、患者さんは不安いっぱい、精神的・身体的にストレスを感じています。患者さんが不安を感じないようにするために、次のような「基本的な対応」を心がけています。

事前説明

診療前に、使用する器具を見せたり、触ってもらったりしながら診療内容の説明をします。

見慣れたものから

歯ブラシや、身長・体重測定など、日常的に見慣れているもの、やり慣れていることから診療を始めしていきます。

10ずつ数えながら

10ずつ数えることで、いつまで頑張ればよいのかの目安になります。

褒めることを励ますこと

言葉での理解が難しくても、気持ちや心で感じ取ることができ、「頑張っているね」などの声かけで、患者さんに安心感や「できる」という自信を持ってもらいます。

小さな課題から

患者さんが自信を持つことで、次の段階に進もうという『やる気』を感じてもらえます。診療時間を徐々に長くしていき、刺激の弱いものから強いものへと段階を踏んでいきます。

私たちは、これらの「基本的な対応」で診療を行っています。不安で手をあげたり、体を起こしてしまう患者さんに対しては、スタッフや保護者・介助者の手や抑制帯を用いて、抑えながらの診療をすることもあります。また、全身麻酔での歯科治療も行っています。

今回は、全身麻酔について、患者さん・保護者・介助者から、よく質問される内容をQ&A形式で紹介いたします。

【全身麻酔Q&A】

Q1 毎年どのくらい全身麻酔が行われているのでしょうか？

A 過去5年間の全身麻酔症例は次の様になっています。

平成 12 年度	41 症例
13 年度	45 "
14 年度	61 "
15 年度	62 "
16 年度	95 "

Q2 どのような場合に全身麻酔になるのですか？

A 治療内容や患者さんの様子によって異なりますが、次のような場合には、全身麻酔が選択されることがあります。

不安や恐怖心が強く、抑制をしても、診察台の上で頭や体をじっとしていることができない場合。

治療中に体をじっとしていることができても、治療期間が長期にわたるほど多くの虫歯があるため、一度に多くの治療を必要とする場合。

不安が原因で、歯科器具を口の中に入れようとすると、嘔気を催す状態が強く表れる場合。

親知らずの抜歯など、身体的・精神的に負担が大きくなる処置や、より精密さが要求される処置の場合。

保護者や介助者から要望があり、主治医も全身麻酔が適切と判断した場合。

Q3 一度、全身麻酔を行うと、毎回全身麻酔での治療になるのでしょうか？

A 必ずしも、ずっと全身麻酔での治療になるという訳ではありません。後述の「全身麻酔での治療が終わったあとには」のように、治療に慣れれば、全身麻酔でなくても治療が受けられるようになります。

Q4 全身麻酔は安全なのでしょうか？

A 麻酔管理に必要な知識や技術を身につけ、日本歯科麻酔学会が認定した、歯科麻酔認定医

(以下、麻酔科医と称す)が全身麻酔を担当します。当センターには常勤として、2名の麻酔科医がいます。また、近隣の大病院から非常勤として数名が派遣されてきています。安全に全身麻酔での治療が行えるように、麻酔科医が全身麻酔前検査を行い、治療中もずっと、患者さんのそばについています。

万が一、トラブルが発生した場合には、近隣の病院に救援を要請したり、入院設備のある病院に患者さんを搬送することができますように連携をとっています。

当センターでは昭和59年の開設以来、全身麻酔に関する重大な医療事故は発生しておりません。



『全身麻酔室での治療風景』

Q5 入院が必要なのでしょうか？

A 当センターの全身麻酔での治療はすべて日帰りで行っています。当日の朝に来院していただき、夕方には自宅へ帰宅することができます。

Q6 どのようなスタッフが全身麻酔での歯科治療に関わっているのでしょうか？

A 主治医と担当歯科衛生士のほかに、麻酔科医と麻酔管理の介助を行う看護師または歯科衛生士が加わります。スタッフ全員が患者さんの様子を把握するために、状況に応じて事前にミーティングを行っています。

Q7 全身麻酔が行われるまでの流れを教えてください。

A 主治医から、治療内容や治療回数などの治療計画についての説明が行われます。治療計画に同意をいただいた後、術前検査日と治療日の予約を取ります。予約は現在、混雑しているために、およそ2ヶ月くらい先となります。

Q8 術前検査ではどのようなことを行うのですか？

A 胸部レントゲン撮影、心電図検査、血液検査のための採血などを行います。日常的に服用している薬の名前や全身状態についての話を聞きます。

事前の注意事項や全身麻酔当日の予定の説明をします。患者さん・保護者・介助者からの不安なことや気になることにお答えします。

Q9 事前に注意することはありますか？

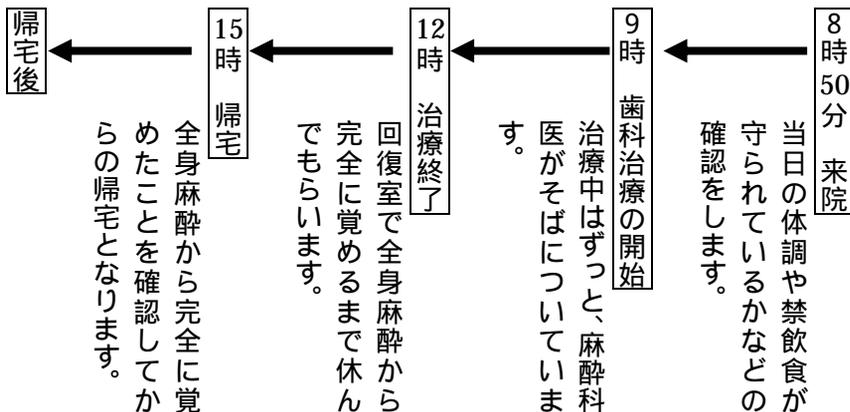
A 全身麻酔前日の夜12時以降は飲んだり、食べたりすることを一切中止します(これを術前の「禁飲食」といいます)。全身麻酔当日の朝も朝食や水分摂



『常勤歯科麻酔認定医
左：重枝診療部長 右：長束歯科医師』

取を禁止し、禁飲食が継続された状態での来院となります。胃の中に食べたものが残っていると、全身麻酔中に嘔吐して窒息する危険があるからです。患者さん本人が食べ物に対するこだわりが強く、夜中や朝に食べてしまったり、保護者・介助者がうっかり朝食を食べさせてしまうと、全身麻酔での歯科治療はできなくなります。日常的に服用している薬を当日の朝に服用するかもしれない場合は、術前検査の時に麻酔科医が判断して伝えます。自宅を出る前の洗顔や歯磨きは普段通りで結構です。歯科以外で日常生活でも注意が必要な病気にかかっていたり、術前検査の結果、さらに精密な検査が必要になった場合は、大学病院など、より専門的な病院に紹介して、歯科治療を受けてもらうこともあります。

Q10 全身麻酔当日の予定を教えてください。
A：例として、次のような流れになります。



【全身麻酔での治療が終わったあとには】

1 トレーニング
先ほど述べたような、基本的な対応をする中で、診療を行いながら、歯科診療への不安をやわらげたり、診療で使う器具に慣れさせていくようにトレーニングをしています。しかし、全身麻酔による治療では、患者さんが眠っている間に治療を行うので、トレー

ニングをすることができません。そのため、全身麻酔での治療が終わった後に、改めてトレーニングをしていくことが大切になってきます。

やがて、歯科診療が怖くないことがわかり、一人で上手に受診できるよつになれば、地域の歯科医院でも診てもらえるようになります。

2 予防指導

全身麻酔で虫歯の治療が終わっても、一人で上手に歯磨きができなかったり、保護者・介助者の仕上げ磨きを嫌がってしまったり、おやつに甘いものばかり食べていたのでは再び虫歯になってしまふ恐れがあります。虫歯のない健康な口の中を維持するために、予防指導や間食指導などを行うことが重要になってきます。

3 定期健診

患者さんのお口の中の状態によって、来院時期は異なりますが、定期的にお口の中を診ることで、虫歯や歯周病の早期発見・早期治療をすることができます。この早期発見・早期治療は、患者さん・保護者・介助者の不安や負担の軽減につながります。

また、トレーニングにより、せっかく慣れた歯科診療を忘れなためにも、定期健診は大切な役割を果たします。

【おわりに】

今回私たちがお話ししたことで、何か疑問や質問がございましたら、主治医や麻酔科医、担当歯科衛生士にご相談ください。

【保護者からの声】

口腔保健センターに入院して
佐藤 ミチ子

娘は3年前に、口腔保健センターで、全身麻酔での治療をしていただきました。全身麻酔ということで、多少の不安はありましたが、治療日の前日に当センターでの研修会に出席させていただき、センターの治療方針の説明の中で、「全身麻酔は怖くない」とのお話を聞くことができ、安心して治療を受けることができました。重度重複障害がある娘にとって、全身麻酔の治療は、本当によかったと思います。

全身麻酔での治療後も、継続して通院させていただき、現在に至っています。娘も初めのうちは、大きな声で怒ったり、力一杯の抵抗をしていますが、回数を重ねるごとに、少しずつですが、落ち着いて治療を受け入れられるようになってきました。

これもひとえに、先生、歯科衛生士さんが根気強く、対応してくださったおかげと感謝しております。これからも、健康な歯を保つていけるように頑張ります。

【保護者からの声】

金子亜貴子

息子は今8歳（小学校3年生）で名前は怜哉と言います。明るく元気なカラオケ大好きの自閉症児です。

言葉が7歳になってようやく出始め、それと共に理解力も伸び

てきたので成長に感謝しながら私も元気を貰っているという毎日です。そんな怜哉ですが小さい頃から大の病院嫌いで、特に歯医者には一番嫌いでした。初めて歯医者に連れて行ったのは4歳の時で、近くの口腔保健センターに行きました。毎回大泣き、大暴れで口を開けさせるのも大変という状況だったので、全身麻酔での治療を勧められました。でも結局、説明を受けても不安な気持ちが消えず、そこでの治療はやめてしまいました。そのまま2年位経つてしまい、治さずにはいられなくなり、友人の紹介で、こちらにの先生に前の歯医者での様子や私の不安な気持ちを全部お話ししました。すると先生は、「どんなに細かい事でも心配に思った事は聞いて下さい」と言ってくれました。聞いて下さるとも安心しました。私は心配性なので、かなりしつこく質問しましたが、とても丁寧にわかりやすく答えて下さったので、納得する事ができました。そして、この先生方なら怜哉をまかせても大丈夫だと思ひ、全身麻酔での治療をする決心をしました。それでも当日は心配で怜哉が眠る瞬間は、ゴメンネという気持ちで胸がいっぱいになり涙が出ました。治療は無事に終わり、怜哉に会えて、いつもの口癖を聞いてから本当にほっとしました。その後経過も順調で、定期健診も嫌がらずに通っています。あの時の一生に一度の貴重な経験、怜哉にはゴメンですが、親としての責任を強く感じました。治療に携わっていただいた先生方には本当に感謝しています。ありがとうございました。



『撮影：浦山千治』

【編集担当者より】

保護者であるお一人には、氏名掲載の承諾をいただきました。また、患者さんの浦山千治さんからは写真をいただきました。ご協力、ありがとうございました。

研修会にご参加を！

お気軽にご参加ください。

お問合せは左記研修担当まで。

対象：保護者・介助者等
12月15日(木)
10時～12時

2月28日(火)

13時30分～15時30分

対象：すべての職種

〔疾患別 摂食・嚥下障害〕

第1回 11月11日(金)

第2回 12月19日(月)

各回とも10時～15時

受講料 無料

場所 8F研修室

電話 03-3235-1141